# 行脚文集

出雲 伯耆 著作 備前
讃岐 阿波 土佐 伊豫 巻
播摩 淡路

五

ヘ 5
2873
5

へ5
光 2873
春 ノ

# 日本行脚文集巻之五

寛享二亞五月廿日出雲大社。同御崎詣。同夕杵築。宿松林寺。和尚紀龍洛乃下軸一幅ぞ。住納一詩をたまふ。ヨッテ末韻。唐ぐよ一息せ一。

○竹杖艸鞋行樂處　三千里外一吟身　趙茶頗盡別ニ無有
何用ヒ待君ヲ酒入レ唇ニ

雲州松林寺宏雄艸具

○唇や　阿字乃文識わくさえ

○又そのく猿狗乃句アリ。一々脫ヲて一油ばくそくりーグ。

○やどりせむ　葎の宮も　萩の客

○出雲風氏餐ヨ　猿　○鴉ハ淫ヲ　萩ヲれ　庵のつゆ即真

○世話ヲ技業しくく　御蛇ヲ挑ム　宏雄

雨窓ホノ　亞垣氏　正以

かくて句稿樂ぶ小冊ゆり。信物圓知陸佛坊ニ留ヲにて句ヲ

さふ八景乃長編をかく。又宗門乃系譜を望みな。

○淨土真宗詞　阿界金風乃強くわれどもく尽るまなく。菩提門よりみ日月を屢拜の拠そくくどもく滅こほとをれ西方よ十萬乃宮殿と達てく光明屋乃無量壽翁おりまれ此をもんぐをもこべ。さればこそ弥文亦字乃字のはをもをかり生死乃海をわたりまん。滅弥香壇乃出掬木像紫磨金色乃よそをを長安乃人我の妄相をうけ常に賤肘乃勝おして禮拜。唯心乃道場するおち蓮華國をらぢや。雖揚うる。念佛三昧を他力易行乃要路智愚入門乃真道をうるめぐ者多がほとうをも。あいくお法をたふ尼入道ちうと。縦仁史宮一ぬる已身よ八一毛も穢をおけ。信心不退をう安居乃暇となりよ。三祇乃長劫を六字一聲にちぢめ。六度乃廣行も一合掌に盈ふこれ機法一體萬法一如邪正不二かつは仏祖念念相續し。命を法生乃氣よ安住をうる時ん。夢のうちにされて二世乃佛祖おゝ。即證真如法性身。こゝろ多けまくめでたふ堂をうのうち。信よ高祖。鸞師乃恩旨の光。闇世乃燈火よと称下るまの。雜縄乃沸川礼退屈まゝとさうのうち。穴賢ゝゝ。

○自他平等心の園はよい生死涅槃乃離しをゝ

ものを郷よもろくく人魚いうらう無他方便の餌食よ

真享二乙巳鐘佛日　無不非軒呑空居士三千風

但偽をてゝうのほて誌彩しのみ
但偽我儕ひ人塩谷判官原家ばか神門守乃

○神宮にお拝ら芳徐湘ふ願樂寺　法印圓智

偽をも敲くに門をの月よ西やをく　同寺　圓意

長樂寺　祐信

舊跡ゆかしき里にの宿
とりそめしに隈あまた
ゝ松江の城下月照寺
鄙秋上人よき程に
十余日とゞめられ志
うれしくて
記をかく。

三千里一羽の雲後部二
川肥こく娘。客をもてなむ皐雨　神門寺
噌や待ま一よりのほとゝぎす　妙傳寺
めさましの薬治毒馬ノ　河名　日應
とめでたき　馬庭氏　與三
〇雲州松江歡喜山月照寺一軸　末法百年乃紀のあるそ。　擇谷屋敷主板倉氏　金忠
松江波濤よかうんくの雲ぬそ。兆載永劫の月れ真ハ。
喜山頭よひくりを吹されでき
寛濶大度乃古風ぬあつざ。世乃わざわめでてうおりほゝ。
佛母そのゆゝしき慕し。拜掃を骨肉乃親よるてうれしや。
悲母月照院殿乃自ら揮を真劍。牡鹿乃も紫ぬ沁ぬ
て。世ぬ高真院よ移ノ。追すゞくく寶山院乃三霊同蓮乃
昼宵よいほりぬ紫綱乃夢。珠の袈ゞ七重乃
樹亭羅網乃臺乃月もてやどり基をつゝ称ふ堂ぶ。
障指乃面貌うるはしく。高聴乃鬘し蓋雲ぶ巴さ。鷲ま乃
法嘗ハ蘭燭よひゝぐ。むべも日域小教迦牟尼眉月の
源空如来乃宗風。一教乃流乃法味よろこばしくいふべし。ほやく
慮ゝ自ら商禅乃嵐ぇ論慢の峯ぶ拠まくぬ魚岡の野よ骨
とさゝしゝ他乃念珠の雑ゝ信心乃鷹よ宿れて上品乃林り
ほゝとうつ。現住廓秋大徳ぇ智行薫修乃力生。吉ま稀ぬ
む乃統ぬ掬りて。續よ掌中乃蓮界ぶ入ぬあそばめよ。
は行履拔ぇの競老七。法風一味の玄門面ぶ。醉くたゝ禮潜
乃網ぶ於さく。幸ぬゝれ。當木守君網近公。當ハ聖教乃雲
よおとゝちを憐ぬゝれ。あらい風雅乃儿よ。肱をちびしゝれ

を油然と夢ふ寺社再興の良木を肥し。沸然と斬
雨を黎民の真ちよをくだう地境景風又こゝの。榛下
の磚よ扈して。榛眺眺しふ湖浪を縮よたゝ。大山と軒よ
翁天津を伏ふ捲ふの漁人。醤甲よの漁翁。艶芳野初瀬女
の鼻揃を握にし。ゑや露と繞り。翅鳥く捲揚しの。捲の筆
ほさとかんて。ゑ飛ふく石ノ人肩を帽し。下暑。

月照寺を
題しく　月の照ちる流しさゝ多のか胸の蓮ゝかうばうに
　　徇着富士松江の夏ゝ蓋をめり

○かくて当町鶴屋津宗ぐの水練千よまのゝ。鋸とふ居屋
木ふ高の間よ。菅原完路。西造。白浜。荒間。納浜。三瓢神
浦の風光れ合。松江眺望三易一軸せし。略。

○ふ旨平賀氏風流軒号木の山左よ海ふゝし。門お悠よ

ちいさ紀笠ふの乃ふ多うはかゝ源屋の表伐明ふの新奏ふこゞ向
舩めさふ多り。光徳いざめひ打ふぶ三ツ二ッ魚踊ふとろふ。
水源門よさしよせぬ。慕ふたゝ石木奇をつゝ。孤。濃ふたゝ山氣
異をたゝ受。かゝこゝ弓場。左ゝ馬陽。両亭茶居かうの和の
ねを海ゞ画所ふよ。翠簾羅幕締のうち。仮厨よ爨ふるれ
ゞ。ふふふこゝうを板。組清ふ。刀子おつふ生洲の瓜茄踊ら也。
ふゝも湖のもとうちし。鰡。鰕の觴。智拳の茶椀。一時百年
乃真をちぐめふう。二ノ金銭そゝみゝ。蕃の景名とにをてふ。
例の軸二ノ。あまりよかく。ぱうち鍬轉周の題一品と記ス

○鍬轉閑　一ノ金拾頃乃平ふ
しをねゝく。橙乃まのゞさゞ学蕃よ。擡脱ふのふ多ふ肌よ。辞の纍
落沢鬼慶時の軸道を修ひし。英視文瓜乃嗜ゝことてうそう

ち初こほびゐめうといとおもろ。やづく懐乃爪切とりおゐ図ゑれ
兒乃息一さそ祝ごろりて。意茨の屡ふよほろゐんしと。鼈乃
とぐめて煮さ一ゐそろにくさびろう。薬草いすぐまふ息ろろふ
よ。摸錦ゐ天盞乃ゐ泡よいと真紅ゐり。不何いえ咲てめづし。
石亭ろ銅ゐ鳥ゐろくわ一。よ五器雑乃こめさよい百ゐ圖ゐり。
先生乃指かぐめて図ゐ小ぬぐし。雲蜜積雪乃法よ。牛扁へ
牛の病ろふ心よ一。稀蕨ハ息ゐ乃みちよ験あろに。茗屋いろの
そ一。蕃薗。薬。澤蘭やうゐ乃かろめさろもとひろくいひて
あろも露ざれろりや秋さちろのータくんはぐし。警ゐろの。
書ろろふまろよ風掃ろ舞れろめ。ゆ寝ろ半天ほよ暇。精蛙
蠑乃いそ一ぎふ羽紙あろ。紺蠟圖よ入。蛤蜊乃美ゐと病ゐ
ろうれろさ一。螢蚯乃蛇箸ろ一とゆぐくし。蛾乃本



猶ぐくや。金亀絡繰と思ひめよみと。滑虫乃妓とおろく営ふ紙燭
さろせ隠ろ一とろぐむろもろろ一びゐあいるさよ。螵蛸いおぐり
もやろず。蛤蟷蛸ハろとろむろろ一むろろまく。蛎乃はろろびよ。茅蜩蟷
いまめろ一。叩頭はそい　○鍬轉ま　蚕ふ卵や　瓜茄
ろろ富にとからゆ一。　○雲祉と貢みら風涼風圖澤風　塩久氏　時住
初かよ刃いほまろ夕風ゐゆむやはゆの漁ろ兒　實照院　良與　法印
や宮ろろろ九法雲ろ任紬かよてほを吹風めて
依日ごふ小宴内考ろて。　○鸞一雲　留　騒　客　本成寺　友梅子
同後とかりめぐろ。圖四
ねよ肱ろ人郭公きく
ろ神圖ゐゆへよ乃所そてろ一ほ一と呂のあ一ほ一と記と。鳥
上雲。鰍川よふ八岐蛇古名八　佐久乃雲よ八
ま遠猫同姫乃社あり。二まを乃ろは乃形あり。行まこぐろ森

葬ることあり。いさ須神宮（カミサビ）ふるくさもありぬべきわざなり。雛のあそび女殿あそび。稲田姫。素盞嗚尊（スサノヲ）霊奇。手摩乳（テナヅチ）。脚摩乳（アナナヅチ）の像（ザウ）と金嶋書（カキ）しいやを巍（ツヅカ）ともみあそぶ。

申乃卯より八月を結ばん。（ばん）は雛ニ入名アリ略。佐右人（さうにん）の短舞（みじかまひ）。

あまつみそぎ記（しる）す。書（ふみ）もなれなきを暗（そら）とや八重（やへ）言（こと）乃祓（はらへ）くへ。稲田姫乃ちぎり給ふ状。「ヒモクレヌサクサメノトヨハヤトヂ」

ヨコ・ロノヤミワレ・トハスナ。（ヒモクレヌ…）

（ヒモクレヌ…）

（ヒモクレヌ…）

けく。ちりこの乃ちくさの那りとぴくく再會と清り。手がらの日すをと。

○又乃須風と狗流とき　夏二つりこのあけて彩やん

て。大指法より一帆を　○蕪乃世仗擾楠の景公示風涼　雅まもあり敏汗乃麻衣　備前亜山　定直

お主。児流乃擦と南　白と遊て深あうあ一せ風やを　竹下　茂門

ぬや目かくる。絢浦。　別招げつるふ此要月にくく　齊藤　暁翠

き。城乃鱗又やそとぞあねぬ粗。濱花乃出九亀こる須民重直翁

の亭よそ。ぴ鎌。在こ四列　世二乃藉鉄林。ふくなみ。

○蕪鐵園記　まこ心夏落乃書流のふ。秋景ふそ雪の登簫

乃年。風ふる紙活り震月よ流　よ流くそのづくく大指園同根乃稜み

等和一な乃前ふくむさんで等ふ乃まとふふつくといい

つ。ちその脚を摘よ客ともやくびよくふものふ飛情



乃天質なり。山澤容ぶ水ふ　旨こん播神無心にく。ぷよ　離菊先生の小乃せこと。

山よ楠さく海よ離して。南陽図別るふわとむく。徒乃籍を冊

網乃流るよ棟門いうあーう。

名う須民重直文乃店小頭　重節乃放闇をひくきあて

まこく。馬道ぞちふもとる。

よ。楠乃柿ふとる色。夕鳥よ水

あこまて策祭乃姿颪うとふ

て。先ふこ字の猫狭よ冷眼乃翳をはふふ。阿ふうあま図湯

乃立成まつ雪り美法。魚頭ふ小ねよ七もとりせ。三ふ名

の二汲跳よ再拾ーせ。雷岩乃尾よ蠅おりせ。図客よみぞ

まこば阿蚕乃ひさく。ゆよ。敲蚤。蛆蛍乃。追でくるみれくるなき
。黄鰭鯛乃藻隈をぐさもちのさ
乃わ家。檣柱ぞちてく。麩あ。蓮乃楼こと。鳧草
眠こと。森くさもろ。加賀乃腕はまよ。鬣乃羽風と。噛もしほそし。老
澤ふお。路そこ。梨のあづ枝をとう。易元ぜう。鼬い。移家乃屋
押よ。泊もりのもり。亭とこ乃。堂よ。我菴よ。松。翁老人も。茶や。杭
をちてくる。蒲萄。家も。廻。有經。竿をくりつ。亀。すぐく。納
びくる。港。然。妄作乃。え。亀とやう
。やまふ。かの。素駝。ぐつ。ひくん。来。紙
楼ふよ。雅ふ。城乃。ろ。のごとくすく
ま乃。家をとふるよ。ぐみ。ま。ろ
○。先。ろ。路よくも。ろ。
○。藤。紙。風。氣。ふあり
○。四國邊路海道記　今月。院よ。貞享二。巳。六月廿七日。九。亀

と。簡途と。柿山。路。え。弘法大師。按。ま。ふ。信よ。指化乃。ざ
ふ。ふ。ひ。ぐ。ぐ。ふ。海乃。ふ。ふ。ま。ふ。ぐ。ぐ。ふ。ふ。寺社。霧江の奇怪。
言語同断乃。ふ。ふ。ふ

くるも果てぬ。そのうれしさへけうの路ハ奇妙のつゝ一生の
吟ハ後も山号ぼよ山号ぼよ。○いさやさ浜とてもとゞめぬ氣
の発達するの礼をめ。世そ淳朴の風下の國分寺松うもも。
も望の陵や。天王社みつ松やこゝ。雲のの名
多ての向岸さ。圭典法名に珍作し。眺望の一神と。
崇徳院御廟堂頓證寺やを見てし額き。落小松院の勅墨也。
さて廣前橘の法よ西行腰懸あるよ。昔よもの家としてと
海道一俤のつゝやうにおをよ。
多もの当てのを ○やゝ。
○松しやこ若の羽風流とよく
○やゝ杜の系もあるの松の城下よ。鰻屋の町ぶ五千余宇
み。沒る高又真りよ ○こゝ若や金みく風小籠肥一
○又連本り神の投扇 ○うとゝ一面落の先寝家ありく

高松永井
芳水

の向とも。銘こよ招魚小
一神づくりうれし。略

渡邊
志適

○うく小波小菴を友翁。菴
の記を西望よ一神しく

槌谷
尚

三の風や秋暑きまく柳坊

上遠
梅隨

月夕ん投とやう鬼の乳

大須賀
梅巖

まで居ぬ三の風ふ立の月

○脇招づくびやもかせてよ紙小菴

紙小菴
友翁

いさ秋ぬくけ海狭よあをを

大坂
幾音

○秋暑や息むく京小濱の別

副狭口と重こ三の風狩ふの如

伊藤
烏口

又百ま乃名松そく浜の扇の

信墓河滑堂。鰻門の汀ぬ乃堀。五敷山。ぬくれ出ふ山陽百里。月の
下にうる。記と出く 矣うら山大の涼風よ梅枝のうくとあく眺ぬ此筆。
○秦没乃里没る氏よはく。きこみうく房海乃うる是ぬづくく補

陰清山志淺る乃親当そ。園乃小尼光阿来を波よ
ね翁乃刻のみとの。裏検たぐひそ。佛閣巍く。現住不空よ
そう。佛閣巍く。現住不空よ最編て。略 ○ゑやわろうぐさ
一律乃調。○大窪ちかにく。涼山歯谷大師加持香水と記
にく。そぐ後ふとめるうさかく乃。阿波乃雪も入一うぐ天を
深う切幡寺。おろる乃大後の法場もめぐりくて月乃場の蹤
谷ちかやそうひやう一ふをと弁戸もの。水戒経乃十楽もう
きそへあるを安楽寺。美景てかるうぐと。雄峯もる戒ぬうづさて。
笠乃増よ入う日向けー。てず。天容よむとふて。金泉もよう
西よ見うぐにくもう乃ともちの拾楽もる乃道の記従一冥土寺。三
世のみ観音寺。営うそう蓬井寺。ぴ多もにもあい焼山もる栢
をぬさ乃一宮。利拾乃果そ浄楽もる。民芸うかう国乃寺。時戒

あつめう仁風乃。流通場江民吟適そよ経をぬぐ。いにしへ郷よ
てなりー。翁家謝答うめぐりありひぬやがく小岸一独そう
○行脚萩そ流風そう 隠門人

秋ぬそのひとう。月乃筏漕 阿州徳島 釣寂

着もかくていねやむまでとて。一波よ漢係のお章そ。其行曰ク。
○題三千風行履 けむあふおうぐとうくおそうりぐ。そ心乃動いて
一もりぐそ奥をうぐ。いお乃わうああむや。山手杖の盃
よ。浜萩乃里よりひぐさおのめう。三乃風雅翁。思ひを催駒よ転く。
吾阿府の草家ふ履を入らめ。誹乃奥校戒語よ初く混沌乃
耳明うそう。下略。 ○旬小雛風月小帆そう人 又詩よ。
茅菴終日楽清閑 却怪遨遊水石間 頻攪詩腸頑尽処

同君相對更怡顏

名流天下富言子　邂逅貞享第二秋　一室蕭然何所待　阿列　徳島　釣寂具

慢煎苦茗歎珍羞　徳島　堀江氏　吟迪

○神田氏如礫武丈

裏町よ簾外の雪眺め　如礫

○扇の山麓を星や鈎の雪

名ところの雪そのまゝ　又

連衆　孫枝の句各〻脫句　○編笠や秋深さをものがたり　仝

小序うつく形ちの略　萩原　律友

○月見の夜の月あるこ見れば秀句人　下条　梅釣

指折暑さ忘れ掘。又ちえ歌一　布家　一知

月入波の余波と思ひおむじ。又ちえ歌一

末の松よりもまつぐらこぎ波の名おし月と萱とそんよ

○往来段八倫よ孫枝ちうへ

ちり手もちぬるうつぐりうつぐり

ちうて。蟬分の屋よつもてう

ちうし。と一軸とちうし。

○芦仕網杜や俳諧よ反吟　伊藤氏　芦笛

雪明りをぎむ鶴の一聲

○長擐かゞ一。ぶてうう萩の祇　富松　吟々

がくて多路八少年よ一ちうし。ちうべくぐつのう　孌もいづせ。お

れ芸風もがうと孫ぶよもよ。大師の引合せよや。酉参といひ一道

仏者よかうり合。見行にて一つよ後づ法よ家のたぶりとあてゆく。

天乃見和の雪山よ。湯杖ちうう乃世界よ。鶴乃羽擐よ舎りよせ一を。

鶴杜の汚手るなす八乃人肌世界。鶴乃羽擐よ舎りよせ一を。

大師作佛乃眉間よ影竜よ。宿石寺坊よ一軸よ略。

○子佛誕一鶴乃乳房や杜の家

雪森欤よ掃りよ。ちえ路いぢくにろあ雪とずくまり不よ。ぢうぢう

ふ糸絶する。仕丈帯乃御預。増ちぬるぢう一紙とおよ。○裏ちえ乱を被

菊乃菓子寺。同和作の墨乃芳ゆぢう。弱かうよ。範浦。ふ路底よ舎

天狗の法影うう　○一筆

○郡乃角とかうみをし。　信あう富よ岩江の月ろう　阿波高島　垂計

赤岑の墨とるんで。阿　○祇乃月夏せよ君乃業乃松　峯松

波七作乃浪風かん乃　○春乃夜乃霞のくよ綺絃荘　好成

うう雁乃ろんの郭公くよ　夕陽よい丁て音あるま。蒸搗ま一女そ苔を継一。葛亭婦ハ柿

を要そ。ひとむまくうろひけう。樹林も次第くにひろうな

ま。倭遅峡路絃ものうひとみろあり。中比陽成院乃御ま。春門

院。御ゝり阿波へあろ乃ハばうくーき鶯興于もろく。

よろう白波よ沖ン夜とろがーせのみろ。浦くよろうろう波

ろろうんをさのまーそきろ。ぞーおりせーこと絃

おりひやろふろーきめー。からみて宮よ出ぞやくろ屋

乃遥路より新女乃舩唇よ。醤油ろさよい来儀をつぐき。娘一

ぞふ。名競交加ろ。藻ろろんをでと耳はさこがちるろも。郭よ

ま和ろろめもめぞーくおろーいぞくいこ津乃墨るろく東ろ

ろめん号で。西四一乃古絃。山絃ろ多ろ曲江絃めぐふ。法性乃

家よ富よ名をふぞとろんろもまよ。泊瀬乃ろふぉろたくほ

きろ乃佛。何ろんと約をきこ修ふぞーく親ぞろた。阿海日ッ

吐。真如限紅蓮捧。呼風月呑。法性。富青燈挑ぐぞふ。妄縁の

衣絃祖ろ。ぞ清乃化風いと涼一くころさ乃垣ろよろ芋石船

あ。漆路の流江津ろ絃ろ。ぞて孔しの雨ろふ。んろるよ羽

根乃墨。ひやーの絃ま。よ舎ふぞ。向悪赤津絃海ー。うまさおも

あろさんさーと並でく。ぱつさ乃柱よかいたく。風ひおとひのろや

死ろろんかてこふおそろろ。波利よ対ろと風の里。ろ波利よ対ろと風鈴

乃墨。ろ乃起伏安面の村。檜乃ろ君乃神宮ま。ふたはろけ

きこゑの濱はまいもうとは妾(アキ)乃うらうごうは姫一めの小帰(オホアメ)ぬり。
るゐむ本陰のタぐふそ。校をさくよたまわうぴとぐうさめぴとめ
ぼくてみ。蜜(アヘ)乃協をよたちよわうくぴふとこうを座(ドザ)ちぐく
枕乃浜や夜のまうり。晩(サヅ)うらに雲人乃かり猫(ホ)を海一あぎ舩そ。
何とちくなこうぬをめもんとぴのくふるをもあ乃月しぴまわ
るるでみうぼぐきふの月(コヲ)和乃をづらく。養(ミノ)ほをひよ大
月ら。四(ヨ)ふる一三ふ紙ら。城下(カウチ)るふよ入。賑(ニギ)ひ好めく町家三ふ郎
宇。檀田ろにぐの亭ふ　○同どをわいち作山おう一まふ
へ。そや高知今村氏治竜(ダラ)
○ふく追うちく。吸江(ボウコウ)乃まりふ家(センハン)帆よ扇帆とあぎ。
網乃竿(サホ)一ふくうちふ。ふ乃ふ竹林るこぼく記ま独紙。
○五葉山文殊　乃ず山の校乃こそ八木の智劔よ砥(ト)乃校を



ふり吸江(ボウコウ)乃ふ墜(モチ)月よい三世ふ安乃溌乳(タリチ)を雲(レヅ)ぐ。竹林の鶯雀(クワンジヤク)
ふ中(サンヤク)こそるへて。ふ鶯乃濃の禅宮をゐり。ふ真ふの自鶏(ジケイ)ハ空(クウ)こを
うめきて。一蚊乃宇敷よ賽(カウコウ)をふ。作よかるふ寝岡(カニサビ)印(ジルシカ)こそるふ風
にも。宇朝う称(ヒ)ふ。下略　○金毛乃ふ敵(テキ)せりふ称
離(カル)て鳴(ナキ)ぬべし。
○宇治拾遺物語巻の第十三
○宇治拾遺乃庭そ。古池房
浄順乃作記とうそく。
ふくそるふふんとやまよ
る和(ワ)らぐ。追(オ)て山菓(クワシ)浜幣
袖ふうく。姫尺を屏風(ビヤウブ)りまぬ

耳(ミミ)の誕(ナメ)たり。寛客(ヒンカク)宝乃ふ。
○吸江乃ふ園よ。作達無郎　やよ鹿乃ふぐうこそあよとるの月　澤田甫富
舩の都(ミヤコ)ぶあり。
一句ふふくひてまり。
○禅門峯(ミネ)ふ斎福寺ふ校そ。白紙乃敵若あり。

縁起を書略。法竜寺乃園に百枝あづめ。わらみ一追風と福浦
より。三里乃一葉す夢のうち小横波村よりたく。みつも似ね佛
坂鬼こうおろ乃口昼坂汗乃網も綾坂や。もつの小空もつ乳
乃里。仁井田乃正社や鷺川や。古作乃網一浦村乃鄙路よ当
をるづみ。さんい一ころ蒼宅市伝井にこるといをこんぜ。
むーらふあ鎌山や。花園乃松枝。雀乃てるてうこい良よ。
そふおもうびやのこるこんま。百色乃巣牛い鉢乃男とづくい
ころうぶるま雖も松室乃鶯もむくく
南山草根乃ころ家ときこん。古私もいづち新よ摧も。一堆も
又穂汁刃よかこんとすこ。むき園男とはぶやこて。
引の売乃泪や家よ彩る後乃こるむーさ。あう乃痩みる。
ぶこうる東山。釜むぐう



荊畦。七十八坂乃関程腔ころ。墨を離
るみう雲山よそこ。ろをとづへさ
ぬふだ。たりくえつまー血よ
や答ふんぷーてやちふなど後
み月よ百五十尾。鉄鋼よそこ
きいづーいあるざる私を。敦生乃ん
ふうこ。張羅尼多向。法界水禅一味平等と合でて。
○蹉跎寺美眺　斬筮ーて向
をうち。南禅天海肌とくく
硫黄温乃高岳も。ちよ資よ夏ころや。お流金剛福寺。如真
法帝よ法修ーろ業向をこん巡礼と。珠池寶樹乃張りの三
世不二殿のる。ふりよ大楽者乃神威。赫こ。白露雛蒙よ平二六

不筆も大師乃景地に留くとぞ。阿とそ
猫よめぐろ窟燕そ新緑をおびく。白霧乃褶そろり。控蝉い
頭暑をろぐひく。緑山乃深よかつら。紫門ろい仙客乃もけ
跡乃跡とぐめあり。松宮より。電賢乃座せる麟皃乃八海をろつ
ら。れ当山七不思議乃奇物あり。四言の紙にもて七句をかく。
眺望の一奏をと乃望にまりぐこまりぐ略を。
○蹊跎や暇も毋乳ぶさろり。今日い葉月
一陳村よそまよろり。今日い葉月
ぬとぬつれ。ぬまそ戒法乃山徒こんとく蔵よ海ろやこと
ろつ縄籠乃名月とろふてうとうちひそめて老ふつり
ろりをれぐ。あぐれあ春心あつて。雑佩いえそえそえく儀ヒ
様乃ふひろ深く出ぬ。ねぬ殺いまぐ月よ海ろせてなんや。



鄙卿談もれつ　○月や弟ん麦ヒりむまて姑獲る
○観自在寺。平城村伝。松尾坂とく古仏伊乃墳をちえ。
指吸乃景渡り景色ぶりぬ乃走景もり。九別そねりかつる。伊与
のそ君く祇りかつぐく。当寺南海ろ蓋とれぐ。央嵐。緑乃法
をはつま。紅白西山伝塗ぐ。天川猟そ花乃指る甲を乾す。漸に麓
を下る。寶原山に民乃亭ふ。百歩乃ぎぐろつる法ふ草を
祇りぐ。駐れ　秋乃雨はの衣をひむ。仮海さ川水にて　宝原　臣常
ろろる。　竜のこむみろさ海そたたろのるよ転ろくめや
○油ろそろ。宇和島を西りーグ。　○秋乃景や金のおねよ宇和嶺
いと江乃名絶願金名を。
○佛あるぬ名。大師乃城下道後屋よ海。富士として雑剤あり。
繁桂和尚乃再興。奇羅乃粧舎。一紙ヲ乞ス○蝋や最吾奏乃おに俗。
○月乃路答や名脱落乃心あろ一

ほろびよ腑を抉り

○菅生山奥院　菅生の内子村より高又うえ一里くめぐり月ノ輪峠中ノ峠笠ノ平より奥院三里九合目より頂上まで二里九合目より頂上まで二里九合目より頂上まで二

何ふようす菅乃かしをさしてみもびぬふ雨をくさ乃水ぐる
いつまでぐる笘ふ松そめ　○かつちや神ぢや汁夜まぶ袍
むしろはかりぐる不ふ師竜　○嶌袍俗乃ものぬ池水風空
一度乃岩猫も潔一。河乃水鏡をも修せよう。いつまで俳
老ふぢうれ。名所乃る我つるぐろんとぱ。仏偏迫一と嘆。
ひと體乃数俳句全一と會う。風根る葉乃薮を鬢ごと劇ひ
そてかへるー。裾よ寒ぢぐくろりかふをよりぬ地獄
乃つひざものやと「露乃世とおもひながらも」われち
てひろう究かぐ毎一。心乃澤乃神ぐりんぐつぐのそもも猫
猫るや。心の種乃蓼被も。ぱ象の町をるりそ。大森彦七う古蹴
あり。手むー彦七と。謎を作り俳ぱよそるろ乃俊す
ちもたぐらぬぐろうふれそ。

あふ浄ちる乃。撫ひもかくきこるでまちるや。八幡乃社みーおぐる。
俳ち乃湯形の右尼教乃名所ぶ。ぶ。
そりけ路るの湯そ称代の古まち事あり。長編の湯記。暑二百行り
くものあぐくして。松山乃城下をる。弥谷一景子乃がりゆづくに称のぐふ
と吟一。ぜうそそうて奥ニ　○松山たぐふ。風月や希よちぐく人。
ふ乃長燕の旨よりくそりそふ　○週去のかぐこ乃月もやこう伊予松山 泰氏一景
ぶ古ふる注賀寺や。目もくらみ弁ぬ薗る乃里。旬ひを奪ふ。風景
郊まぐく。○風字や縞魚乃追風編貧る　○圓明る。泰山寺。八
幡る。小祠寺。新谷村。今治。山水よ一紙をそろ。○今風乃
うちぎゆーさ俳る篇　○四国乃寺。香園る。永見。横峯より
乃れぐ。ぶ我四国第一乃るる山。俳ち
け本院前神ぱ。宵法ぱ下不落ぐ。箇山乃記を書。略

鞍馬の山やまの端うら月ふる程を翁てやすむ
石鉄のこゝろむまでひくくる那須風とづる秋の砂
○みち風敏一ちくり純なて紅もみ 氷見 素巖

栄摩那大門とて園景こゝろ高き院。三尾寺。け奥院川竜寺と
て大師秘蔵の地あり。一独をのこす。八十八坂の山をめぐり。佐
野むら法華寺。牧谷法華寺より海う。真言宗の記をうつす。

○七里石川民見作同
常則よそおくぬ餐よ
二日啄一。今日又阿刀の内より入。巨鼇山ふもとの寺として。坂二十里の
大山あり。教覚法師より調一記とかく。嘗の麓の山紙よ
苔の衣も萩の花もろ。小松ある我る。観音寺村。西山民一十
るよ海う。黄ふ敏もの地。能もあまる伯う。く。塔う。

観音寺西山氏 一十子

十二日宴じ。能舎日く也。
○稲乳の山成新湯よ氣を肥一
宿の園の柿をんやりて 調親
又旅初う ○松葉や仏前の灯算や 同
風比耳よ調一琴なく八幡山よのぐく。風艶無二なり。當ふ十二景を
付ふ尋一軸一そ。し系頭を湯よはくう。章句摘よをつまてうしく。
住柏宵儀帳もめでまぐ。日秋の多く歌いと真あり。
琴なのふ松風よまさめて幣の追風うきふ永人
○一夜庵記 山崎宗鑑法師の墓深一重竜よアうでし。
みまで古松一基の根よ四尺三寸ばうの石塔右富く。頭を
蓋の螺形ようづくき。絡たの襤褸。そみ世の俤もかだうり
てゝと泪成水よむをび。陸を能尼どでてつ独をにいふふ
ふの松もさまよう。誹雅の棟梁として。能懲の

陰り。一生一瓢の肱をまげ。和漢晨昏いとれ老ぬ。おもふ
ようにつくろひそ風流を志す。仙せん人。栗みのそやさ
まざまそれ白髪ますずして。心のひまくうらぬぞにおゐや。
おほくい難才よ係ろう。世慾の役とこ。あくい名利の俳枷を脱。
俳諧の命を縮小庵のこ。俳諧ガ
我の真人と今よりうそふく。終よ維摩仮心乃指もう悪
紛をぐわせ二祖世よあくいふぬまの如くさい。和宗大道乃寶器うちやぶれそうふかくぬ
をそゆくと。誰下劣公。濩乃神とまりぬるやや。おか
つてうこそうつる男をそうそう。旅俳諧の悟入さよくくみさき
をみれと。自己高俳をもりてやうぬさくぶ学当乱連の指
を巻。三世と一茶庵と悟のこと。○入おれくや。月仏雲おを一茶庵



○をみくく接待乃
白とこ面こよ脱
白小庫と流こ。略

○来谷氏基稔丈。木
神社再興ノ記を書。
まよ白雨望うう

力をいふどもて。荷俊乃僧よ月勧く 宮本氏 一盃
月乃底ぬまてい。ぼこ乃私の名号場 久治目 一砂
東鳥浮つ。西海をの空。龍蟠年 一裏
日没雨冷。補綴つぐさ。笹屋 林昌

○雪乃あつまれ神婆 宇喜田 勝舎
をうけ
行秋をもてそやれ月みそ。
又
ふるともな乃月いくほもそ一思ひ出をとの猶小て
やく肌をくうるほそよ。あぐで十そんあのくく。卑夜あて
うふめぐこたまふ。かくてありそうう面きる〜ねぐざるなくやを
たらうれ。旅谷劍五山よほく。ぐにこおるく。磐そこうう劍五山。
白雪雪歩を積こく。月双をみぐくぐこと。八國峯とて学双

乃地す弘大師ゆかりの窟あるよし一軸しるし宥澤注申ス。
サニ百余歩辺曼荼羅寺。そもしかもこの寺の
院号通ずるよにくやごく院納宥謙かきおこ清絵せしよ添光も
幸居し給ふ乃国とかんあやと聞乃あよごちるよごと。心乃
風乃さ〳〵もさごろうふうちおごめさて
○讃陽屏風浦誕生院善通寺一軸　芦牙乃一滴天暴水
國乃種子。寛且国生れ花乃うつ者ノ正法寶園のねわ。神
佛和合海の漂澪とそもりくるる。此瓢軽軒蘭枌のまうしや。
四國を路よ出うつ相てろおしれ四曼相即乃姿の像と脩
賢六大皆具乃標識なり。阿字よりおこ乃指し調ふ。万字
むとび乃宀皆一尋不生乃捻数よすぐり風ふ辺ふ乃陋よ
さすゝぬ。粤ものあり。遍照金剛大師。御誕生の稽疑地よ荘の

帆打絞〳〵約束乃砲をはさ。活舌乃あ〳〵海〳〵とふぽよまう色
を宥諒和閣いとおかとふをてつめもつくとかてくく。椎
当心そる野東寺南剏屍基乃始。又四別八十八箇乃遺一ヶ所
たんぢふを麟鳳乃雕殿亀龍の屋閣軒離房とそて跳
園寛〳〵さそ乃閑院の錦帳をそ乃ふ醫王能仁膝をちくべ
蓮座はく〳〵ぬするうち大師乃御作。信よ中道益衆の鼻筋
あいざやうぼさ。下化慇懃の醫こそ乃ふそおて李象の梵
まそおほん御手をのこ〳〵金剛宝乃うちゆ〳〵く鶏冠窟乃
弦んうおく〳〵三衲私乃あつきの嵐を猶ふせ〳〵まこつ
きいとも味深やおのふよ南天乃カラクニ開闢初見よまびら〳〵一粒乃
芥子よ納る容門をひらき。日域乃法門よ捻そめおよ大祖ちれし
口輪おのおほそふあよ。法一海納唐裏とて紫金朝乃錫杖

傳法乃師夜半授衣鉢之事勅書。大樹幕下乃寄帖有添削者乃筐法華轉讀之功德有如是之靈驗云々。下略。彼西上人乃擯斥也。

○題法師扉風ぐうたの夕ぼら

嵯峨迦中山次上山。拾集抄。

嵩高とそまぬ東方をぬく西行松

是歳暮秋友翰子三千風友月出東天乗風渡西海行脚萬里寒暑幾移去去来来如雲無心如如是是任心之處今日来扶桑最初窓剎忽爾賦誕生眺望之詞詞峯虎嘯筆海龍走予綴一律并和歌送公旅窓下云爾

Ⅲ國誹先生　扶桑萬里程　月吾来幽谷　雲客伴閑情
佳境容衣裡　吟心忘鉢頌　記造物無盡　意味有斯行

五岳主公翁机
宥謙

又歌

いつかまた雲の仙境を尋ねゆきて浮雲と雲の心のそこをしらまし

一詩一詩を給ひて。一詩に曰く

人生一世寄乃ごとし。何ぞ別離るゝむとやつれて。

隣山乃金毘羅山より。一町程本村民すま郷人よ。送従脱屐。

和の友もれて容うるれく。先南山うつゝやこゝ人こゝ人

かくしつゝ神坂二十余町をもぐり。長滝寺ぶ軸ヲ。

○金毘羅　祢ぎ高山金毘羅大権現乃往古ゐ。京七條乃
山乃神ぎとして崇奉をめでゐまゐ。禮多の霊童ぢ。尼ぢ多
の河ノ髻ぱ二十童乃左右神をまもらゐまゐ。いぢくや紫雲乳神。
学給國乃摩連祢の誓給ふ頭山乃首
ゐ玄限りたまゐ。かくまぢくれど一佛乞世を約ぢ。ぐくく詫朝
乃ゐめよ再天一步もゐ。二化華嚴乃蕚早ク發八音むをく
捉河の泡と胥ぐちぐ。再に東雲ぢ御ぐく神ゐひ。不猶
肉牙乃勇健を用て。金剛宮ぢ入ゐひ三會の曙ぢをうづき。
叢塚一株の松尾ちゐ鎮ぐ一度ぢかぐこいうる身神乃相形と正
身人膚乃現像ぢ刻垂ゐめまゐ。肉ぢい三身満徳と秘ぐて。六
験優婆塞形をあぐく。五性本有乃頭巾ぃ三昧満字ぢ月

をいつゝき。四大無垢乃縁起ぢ五智一分ぢもと保ぢ。不動
尺體ぢ得佛信乃面貌。顯ぐ。色心不二乃秘奥ぐ。佛た
ゐ。感自纏ぢゐさぐり冷淚毛孔ぢ滴うぐ。感験加持乃猶風
古今ぢかゐり。四時祭奠乃異ぢぐ雲霧にちびく。弥國安全ぢ
祈ゐゐく。真ぢ和光相當神ノ佛習合乃名地ちゐ。やく竜眼
未ぢ法ぢ曙。景艶に眼使ぢぐ。瓚攻富ぢをゐぢ
洞の浦に灑ぎれ。鯨鐘ぢ竹ノ置ぢ捕ノゐぐ法ぐりぢ吸ぐ。朱
鄙金ノ殿ぢ学社乃うまゐ。ふうぐごぢ。猪宇ぢ物ぢ。鰐ぢ
ゐく。とぐれぐ自霧楯子ぐの噴頬。金風筆ぢ舌ぐ吃ぐ弟ぢ祢ノ
さふ苦ぢ諮ぢて左法ぢ覗寄。老祢ぢ啓ノ法往ぢ拿ノ後て
ぐや扉ぢぬぐまぐく。冷簫に法張威猛ぢこるの秋ぢ夕くれ
ぢ風おぢ。反復も折離ぐく。吳粧嘉賓ごろりぐめつまぐぐ。

名、整天破恩、燕樂ほぼ之れをあらわす。眞顧よ醐ノ醍醐ノ酥乃至ノ轉含ノごとく。鄔頭山雪峯寺跳堕乃記を三尋よ載せ一ノ峯ノ「茅ノ屋をわ尾乃ふもとよ結ひ庵にうつろ移るく傘ぬれ旅衆佐一も充宿寄榮法事。周亭不二乃額の記をもん也ぬ勢あたまふよ。擅不向ともつやまふ一ものぬ。そのわり

○不二門　系を富。奇をはふこと秘して齊をかこ受そ。神佛一對乃男他よろくいあるべ。ぺいこと池乃利お孤あるまふ」から〳〵ず對あまま。對もうつ一ともよ不二也。一下不二又不二なり。不二ハ第拍大涼門乃字紋。秘密莊嚴殿門額の一枚揚也。ふくふ讃陽鄔頭山乃岫よ一字の閑亭あり。空乃棟。風乃梁。本來不二宮乃指圖よやあるむ。風跳空墜。心眼不二乃関所ありふ」軒のちぬよ不二とかん額かけるり。ち

あそいよく貴ふう一品親王月宮乃かほんすふひ也。阿竜哼鳳點畫躍々。僮々。ふぐ〳〵いが胸毫視心毛の韜よ備〳〵の例乃豪天方者能う向テ曰ふいふるうの是不二心答。萬法不二。下三ト中道乃不二。不ふ不二心座阿字よ令風。二ふ色心不二。諸法不二。事理不二。自他不二乃二也。元來非不非二ふ又一不二ふる。不二ハ一心一如ノ理體。無二無三ノ言。寂照不二ノ法界體。金蓮兩部不二。二ノ故二ノ而一也。二ノ而不二。不二即一ノ妙理。果而不二平等一理。即心不二佛即體不二神。是則真言秘密宗王。重々無盡奥旨。圓ふて不二深義とふぱよ三摩地乃身。慶諾。不二十門乃額ぬうむ。圓果不二。能所不二。性相不二。因外不二。一多不二。生數不二。色心不二。依ふふ死不二。混樂又不二。頓漸不二。貧福不二。上戸下戸不二。皆まていいづ。

要よとうとぶ。不二てう陰陽両界大日。不二一心一如。如こが中乃
如なり。宗すこしも拘ず。唯呼吸もつゞまるのく。汝心傳心の不
二やうむとなりへて眼前に見ゆるなり。ゆゑに不二乃堅満なりおゝ
り汝乃金風乃そよ〳〵そ。とその不二軒。不二嶽。不二天地
万象を意のまゝ。風雲を添水も不二焚香乃窓。山河草木も不
二曼荼羅乃相。大日覚体乃懐れうちなめりと。おそ〳〵く
駆〳〵。黄昏なよ下愚乃貪嘴をぬら〳〵。又暗りやう仏乃
不二に眺望乃色相、皆不二よるにといつまでもいようと南山
十二嶺そ。翰林学士林逋乃詩乃ひくく不二よ暗
をきけず。檻陳乃ごとつゞくる詩歌不二の短冊よ暗り。行園乃
そのごとき坡翁不二乃かの風よ暗り。前池裏谷の魚鹿い山川不
二乃洞窟よ暗り。辞嶺遠軒の松梅こまで紅不二乃まで暗り。雲



林乃夕待そ生滅不二乃耳よ暗り。石溜箸洗の鼻乳の神鏡
不二の月小暗。檜扇長帝の轟そ。牛るる不二の雄条よ暗り。
筆濃曲流乃音そ。行くをみかくのごとし。昼夜不二乃変化り
暗んかるて院伯宵栄不二大海。不二活然乃気象やまの如の
むりし不二の歌篇ととべり。檜楠不二の書院よお。阿字不二
のお菜よ脇。四曼不二乃むりむりしてい公園不二乃自虎。
風雨不二乃苔ふうれどそ。六大不二乃月よ指くそ。意識不
二乃まの統。雲浪不二のはよ吟とそ。そのづうく。市山不二の窓屋ふ
啄てそ。まの猿野鶴。不二一まそ乃にすぶふ暗ん。廬士維士乃不
二宝とまの面。珍客不二乃客気呂て事と知くの顔杵が不二
漁父君把山とそ。那くい海鏡二祖の廟松筏友とそ。旅しは不二
谷乃勝地。ろくと見ゆそきくお。皆呂て不二が中乃不二。若

亦不二一物よ整名せで。不二ニ又不二
也けユ実もつ狐也阿ゝ。不ニヤ不ニ
一猶遠夜明行月の不二一の雫晴て濡ぬ月ひく袖乃浦波

夏季二神仙調　湖山亂散人　無木非軒呑空齋三ツ風

金毘羅　覊風

「宮乃内風乃ふりせでうしといくそ度の宿　同
「宮ゐてふ雪ふく風のあるうへ又「猿ぬ袖ふく嵐乃ふりぞかさ
けばこゝろもてやすしばの宿世なればうくつまゝ猶すごうて

「金毘羅「宮乃ふもとも尚ゝ
○参詣院　宵拜法度
竹園乃記をうつさて

ねくら　自をうそぶきもて虎霧う臆　宵拜



「夏ふう庭訓をうかゝへねけ竹をちう乃かけ待て
松屋ふうのおぶ嫁とうくぶ津ふ猶ふうこゝろ
少雲亭ととく茶店あり。額ニ○新板ふる扇乃絵よろし
○誹乃宝匠よ扶桑。又毒吟九
序を望れよ

○十歌仙序　風月乃風路を逃雅乃胸圓よ富紀信よ大和乃國。
雪消離ふ春よ。治津風俗ふれ。亦也ふ。徽陽金毘羅の華表
陰よ一柳軒すゝよとゝふ雅趣あもよ。芭蕉乃顔面雪和よ。あ
ふうふ路乃饗俗よ。一撮乃糧をうけあふ折ゑは一富九
廻とゆぼう。人事餘力乃ふうよ腕を曲くふ。螺髻。塵無。一貫。
胡蝶。これふ乃書眞蹟を友とう軒ふ彼俗よ同氣乃治油と
嫩ひくい。去吟九の艶をかう。終よ十巻をとゞうふ。かく圓滿

乃文亭ありし後。勝上ふみこして。旅さそはまのほるおさよと
唆う聯ぐ。ゑこうちまげて。漁追ーくといやもや和ほを乃角作の
賢人をひろう聯くそ。いろうる差乃窓心も部而。猫進男ん俠
も霹迦ーテ。憾みごもとうつさかてー。山絶翅も。適乃額そのる
まど。彩域よ負てく。當中左くくくく迩ゐくく。未償乃絶かり
ちふて。屍よ荷徐あてて。下略。三千風序ス
かてれ不よ九亀乃本驛。藕鉄をもう。小僕むひとてせうぞ
こあまよ。やく。金風乃あてとむこみぬとく。
脇温流美乃院をおろうざしきもなくめくの果てぐわみく。
も婦もうち歸てく。ふいうざしきもなくめくの果てぐわみく。
看めてて休らひ。又例乃なとちかてくひ韓彼そくみん。瀬
堀氏亜信成よの兵術記ヲ書略
○風そ不劍乃劍のカ名る。

○又台宗通應院妙法寺
端鹿乃額。序畧ス

○生涯雲水自由身　一片氷心絶點塵　再會難期君記取
暮齢七十古稀人　讃岐丸亀瀬川松雨軒鷁庵

○しば古集希一人ふと編好てく。
ヲ作うりうりとて不ふりてよ

○酒盃一釜よ酒ノ記ヲ書略

○濡ぎで乾うぎで。松實梢乃河南せり

○下戸松い底ねき河面れそれ　塩能氏　一釜

○酒盃一釜よ酒ノ記ヲ書略

○文蒙ぬ荷癒やてう小兒ぎてんん　猛彩ヲ

ぴ行てく餐ーのみれぎ。うろ

○陽倉ふ　一首

行てれと春夜よ擺とりてく。船ふふはみよさづふおせてこ。
ちく綱ふ　○大淀乃多角乃

神をひて。　時雨も　聴とも　あてこ乃　うう　雲

○かてて陽念濱列丸亀をさ。網浦てり帆綱をさぎ。順風心みり
ゆ絲福ふ松ひや。海嶺よ法打山。獲雀塩龍をうち跳め。夕色

淋き秋乃ころをぱらぱらと風乃風もぷるぷるとうち時
雨雫并て漲ぶ沖津藻帆そ。酉水乃の舟よりわいこまけ
く。壺眺のくろ〳〵くはこあ〳〵う〳〵二十ばかり乃波間を一里乃
暮れあまぐのゝ橋乃○去ほれ汗や阿多よ仕て二通り
富津よ碇して。ゐる夜 室野李氏 氏孝
乃明鐸浦。野本民より ○風實世三晩でう〳〵お調よ夢乃月 三禾 花木
はきふくり。 みち風や松乃まれまれまし 名村氏童子 玉正
○廿ゐ日歩〳〵り濱ゐのかゝる。網干の堰濱ゐりほく。鎌ケ
津嶋の上酉富よりの鎌摩川水面乃移ろひ行ありり
はく。能なしふ多ゐる。細江乃芦火、霧紙さ〳〵 宿岡上 西龜
いはれも脇息 紐を越〳〵大淀乃捕 兼吋面 同
小序〳〵てそ〳〵 三千風や浦り捕の霧み秋 沙門 西秋



○松浦氏。西堂よりの文并
乃達人ゐ巳ぶ序よ
一旬後乃り日乃
○奥ふ寓言堂三千風勸
和り蓮華國乃調菓ふん。そ
はゐ。諏友の芳行を毎〳〵。
り事もふ〳〵おゐびく紙
○二十八日乃松浦ふ〳〵。
ゐほ乃乳御〳〵ふゐ京西老人
よはく。ゐ〳〵夜ゐ〳〵や〳〵巳ふ。
菊乃事女乃ふ〳〵て自り
○はふ砂の隣江。荒井村杉風民列之ゐ生。暑ゐ事ふ乃記を不ゐふ。
○盆山記 於庵ゐり暑事ふあり。形相移乃けり〳〵漬也。ゐを限

世紙か移く月雪や音引柳仙 高島 西松
ゐ〳〵乃時ゐ〳〵ま〳〵月雪や音引柳仙 同氏 意桂
運華國乃調菓ふん。そ 西香
はゐ。諏友の芳行を毎〳〵。
り事もふ〳〵おゐびく紙 ○三十風や君糟糠の事を鐵 松柳軒 西鶯
西堂ひふり早咲乃ふ〳〵 高砂古酉堰十一才 勝女
○面白や詩ゐ夜自小ゆり乙
ゆふ乃浦ま小町ゐ厥

を院名。齢とのつゝ陽岑あり。の魂流ことくして勁くごとく。天亀
海ことくして流ることく。乾ろう。大極園の靈精なるこゝろ
ぐちりばりもほとゝきこゝろ亂ろつよいあるゝ。されど系統隣りある
ろゝひ。ぜを山の人。仙。ゆ。奉祿神。山陰の。かろうて。ろ。ろの九ろを
よび。三指一軸の石徳。麓。亀の文。ろ。竜風の筆。花。ろゝ。命下
ものごゝぼりせ。ぐゝひゆ。小なる。ダ。ぜを。ン。ろ。居。遠。よみもぞ。擔木
山頭よ。ろ。服。を。ゑ。せ。近。よ。おろ。ろ。ゑ。心。る。苓。よ。國。よ。あ。ろ。ぶ。ゑ。ゑ。ろ。ゑ
ぼ。ろ。岫。ろ。。顔。撰。春。が。離。も。ろ。て。。仏。者。ろ。ゑ。ゑ。む。妙。新。よ。。。ゑ。餉
筍。が。艇。ろ。ゑ。べ。ろ。。。ろ。ろ。ろ。ろ。碧。壇。あ。ろ。ろ。ゑ。風。え。坡。ま。ぐ
赤。壁。乃。詞。。ゑ。ぐ。。。れ。ゑ。ぞ。の。行。擾。乃。記。。ゑ。老。三。千。墨。外。乃。紫。煙。東
富。一。ゑ。ゑ。中。の。ろ。ゑ。曙。。扨。。ゑ。田。の。ろ。ゑ。鶴。。掲。ろ。乃。亮。明。。仙。瓢。野。の。は
ろ。ゑ。約。。橘。裏。山。乃。暮。老。人。ゑ。。ろ。く。賴。ろ。。。須。更。世。界。を。ろ。ぐ。。。亂。を。靜。

きば。掌。中。乃。乾。坤。よ。の。ろ。。。車。骨。術。變。匠。乃。行。面。摘。摩。ゞ。納。ろ。。。練。。
宏。茂。の。飛。湍。の。龜。首。も。甲。を。。。ぬ。べ。。下略　○答。髭。や。世。ゑ。ま。ろ。ぬ。。ろ。。
。亭。を。列。そ。よ。も。け。記。よ。ゑ。。て。。一。章。一。旬。ゝ。て。徙。よ。投。入。ゝ。。其。何。よ
○現。よ。阿。字。三。徳。乃。受。ゝ。不。非。軒。と。ゑ。風。實。漢。あ。り。。世。塵。よ。ろ。ろ。ぐ。ゝ。。
買。民。ろ。も。細。ぜ。ん。。補。柿。よ。仰。ろ。く。豹。舎。ふ。ゝ。居。ど。。列。乃。ろ。。ク。乃。奪。物。ゝ。。
只。六。風。そ。の。こ。ゑ。よ。吟。を。め。ろ。。。漢。倭。乃。謡。ゑ。ろ。に。ゐ。ろ。ろ。く。ゝ。も。り。ろ。ろ
歌。を。こ。。誰。波。乃。居。。統。波。乃。櫻。祝。統。。ゑ。分。に。ゝ。。山。館。野。亭。よ。ゐ。記。冊。を。砂
ゝ。部。句。祝。ゑ。ゝ。て。い。人。を。服。近。。ゑ。の。墳。生。食。よ。難。を。脱。ま。ゝ。。やゞ。て。硯
石。乃。一。軸。よ。金。ゑ。を。乃。色。。ろ。ね。唐。云。乃。絶。景。ゆ。ろ。ね。仙。ゑ。乃。奇。境。を
ゐ。ゝ。ふ。。つ。硯。中。の。道。記。を。ん。ぜ。。春。ゆ。り。乃。女。ゑ。も。服。鑑。を。乞
は。ゑ。ゝ　○日。記。ひ。ゝ。ゑ。ゑ。ぐ。ゑ。貴。ろ。ゑ。ゑ。く。と。ゑ。よ。ろ。ろ　播州高井村　列之
○春月ろ自列之ゑ同歌ゝ。ろ。ゑ。乃。ろ。ゝ。ろ。松。風。小。追。風。ろ。ん。の。よ。く。。

ゆえん乃ㇾ㆓。人丸神廟院月瞻するほとく。光祢めづしごりのみ。雨油の風路さめやうふかくりぽ。ぷしくりむくひよさうく浦ゆりかもめ。水私うごくとせーが。十見ち勢風よさ屋打りあづかくて神乃むーの空ふくくをぐめるく。

○淡路島　杵音主浜あ乃ふ津霊と鷹よ。千易寝ぬ乃動にて天地よ適法我ふつ。ふ勅して形質を備ふるもの何るーん。陬浮曇金精乃森自潟鳴よ始りく。九雲よ持抽山乃鼻に狂ひ蓬。伽羅蓋水脈乃浪さ。鶺鴒ふ浴ふくりて。鷺戸の関小善見山乃心柱我挂つ何よ陰陽二気乃ほどあるく芦葦國乃穂よおー。処宇治やあらん世乃ぎー圖よかよ御乃跡。筆竜砺乃一顆よ。枚岡うごく竜松。さ鮫ふのぞるり。下略

かくて岩倉村乃郵司擲に　○乳ふ竜松生髪をそしるり。



氏乃ぞるべ乃るよあとをるぬ　雲さびぬ補染乃をふ浴

どのり。仮宿雲城潟女。杜の　月乃雲や文體変　塩浸水

神社由緒乃門ぞるる船夫。御鳥ふれゆるよまーふ浴ふほぐ紀乃

はづくを眺つく。福良岩眼寺宥典密祠ふたのめてぞふの園とはるぬ。

○鳴門眺望　雲月十二日乃ぞもからさぬいさや陰は耳よ多

てんと。素問者独分借つく。千里の岩路羊腸をさるり。二十余

町乃岬輪之湾をるぬり。十丈ばるりに峙つる岩肩よ打襄り。乾

招和布うちーき。陰門乃ふ瀬を宛ラ踵乃下にろぬむひい阿

別撫養乃崎。まちぐくほどそや瀬てと逼時よるるぞや山海

いぢくともちく。鞠ことぬるきてる。ずらやあ乃海泉乃ろく七

尺余り腹高ぐふえ山陽西南乃塩息。以十八町乃暖よ薄雲ひ。陽

息そそるるるぐ。雲さも理なり。ぴ中ほぐふ二天ばるれ岩浴

あり。しずのひるふし岩頭を瀬潮打てん渚の窟の渦ひぐき
なひくを猫の雷車を一音ふ物とうにや。肝魂もろつぎり也。
水嬢の棄山を辟事だ。波嵐猫宝の
瀑布。洋まつのるごれ。那智三百段の奇蹟。紀漢。おちあふと
瀧谷の巴左右ふ泓く。瀦穴の
沫身流愛。離合くかつまろれ。ろふごる。そみ経波の暗く
さ。み風廿捲の自統しをなつるうきさ。金翁そもあくやや
求食ぱるふ淵かつふ波歌。餌魚鱶鮫ろもろ。遠大鵬
翁も粟ふ鹿言の絹紙捉ようう。かくれ隣濱の漁ぼいい
とちいささ能嫗。空淪除の舳延を翅ふて。只船艤の鐵勢
を追さうひごくいおくく暗戻あやうさ渦穴の水谷紋。
南風小風。溜捲受辱ふろくみぷくふをもちぐふをいそのあれ



嘗の捉雷ノ衣の電掃より狂逸なり。信ふろうが子ふ浪風
もろくむやうりくくべーせんさ。何と隠門のうさ。
なつれるりしさ波なりかくて瀛上雲人はりよ嘘られ。だの
江門よ和捉ろもう。高嫗の会艦みろうが。呂廊れ。や舳砲
ひさあげ。逼みりさつ。横捕捉とえくーが。堅とたうりと氣
をのこそや海系の噌よれくーかぐ。強指の中よ女余望の
周後一艇より曙るのあろぬの車渠の。家。員年一のえそやと
なまりよ肝心狂き。氣巌て。舎るの倍ろよ乱つて隠門の眺望た
雷もの数系福れの八境。二夫一拳ふにぐる。梵庫よ竜てふし。

記撃。

○暗門河面て淳世の杜を風ふ　景狂人三千風

暗門をや手他ろ猫
終我ぬるの詩そ。倒得も鸞赤小眉うちひもう。月他も喪

淡路飛田氏一笑

老乃給事。又大慮乃古に筆ふるひをさゝげ
多びそ離宮行ゝてのほをうかゞひ。俗塵乃家よは竜乃住をも
いひやらひまを十三百餘韻乃尾よはてゝりて。左ゝ菅笛。
赤宿。裸島の煙霞ハ。ゝうて。大のうへい霊山寺。東山寺。仙
宝る。桐野流。二荘。夏楸。春ゝ之。むうみろよい麻野宇堂。芦原
天涯指。父母指。故郷。氣比松原。一ノ宮。郡志。平山。吾妹もと
てゐ乃尊法よさびくやぶんなてたゝ芭蕉女乃庫裏姫ひ
とうとめゝう。世なあつゝ乃施風よゝ後ゝ果に。光法師。秋
すのゝゝまゝてゝさ。校準ハ。ゝう。無神乃末社稲も行ゝむまでゝと
打ふゝぶゝむゝゝがゝうゝふときゝくゝいありよゝさゝつゝゝうぬ世よ
もづめゝ。鼈なう。鶴も車とすべう。合ぬが猫も

鰹を離く。漫ゝを求食ゝ。そゝう陰よむさ。蘭風ゝあゝ波ゝ休らひ
て松亭乃風ゝよ鼻をあゝ殺。東月を一掬よ含りて漫れ
ゐよ猶よ家ゐひうゝて。隼迫ゝてよゝ月うゝみまで。罪な
きて滴居のゝ鵙小看待とゝ。名福よ空ゝ乃鏡を
すゝゝれなゐづゝゝ寧静真人乃養なるもゝをと。濾つれ
で。光得もすゝゝものぐさめて。塩焼ゝの毛茸に木碗乃茶ゝて
雨ゝ曙ゝ行ゝく。擌糸山朝野江井。暮浦の庄屋なるぶゝう
亭ふやゝふ浦乃家ゐゝきふ。○夕虹や堂なる乃掛暮乃浦。
○十又日暮行ゝもちて。野宿のゝ漫ゝ西をけるふうふみまい文
加乃永。宮帆ようゝ帆ゐ。ゝ高乃重波よ竹暮乃ごくゝうちゝぐ
き。杜尾のゝゝ乃昼和よ。やゝ藻塩ゐ吸ゝけゝ。煙四乃竿
とうちかゝげ。釣翁童ゝゝひけゝくゐゝうちゐゝれゝの光